

2013年度事業報告書

法人の名称 特定非営利活動法人藤沢市市民活動推進連絡会

1 事業の総括

2013年度のトピックスは認定NPO法人として認定されたことです。これにより、寄附を幅広く受け入れる準備ができ、認定NPO法人としての税制優遇措置（みなし寄附制度）の適用を実施しました。

事業としては、藤沢市を中心とした、市民活動団体によるまちの活性化事業を進めるため、以下に挙げる支援事業を展開しました。

- ① 藤沢市の市民活動支援拠点方策に大きな変化があり、NPO支援センターの運営事業は大きな節目を迎えました。2013年4月に市民活動推進センターの指定管理の第3期が開始し、同年10月には、湘南台に新たなNPO支援拠点として、湘南台市民活動プラザがオープンしました。団体情報を共有できることが市民活動の推進につながるという観点から、積極的に2館の運営構想を進めてまいりました。8月には受託が決定しましたが、受託に当たっては当会の10年余に渡る実績が評価されたと自負しています。
- ② 2011年度より開始された「藤沢市市民電子会議室」管理運営事業は、協働事業としての最終年度を迎えました。独立行政法人防災科学技術研究所の「e-コミュニティ・プラットフォーム」を活用したサイトによる運用を開始しましたが、思うように発言数の伸びず、オフラインイベントに注力し発言を促す戦略をとり、成果へつなぐことができました。次年度以降の取り組みとして運営協議会の示唆も受け、大きく変革する方向で藤沢市へ提案したところ、採択されましたので、2014年10月の新規オープンに向け再度チャレンジすることとなりました。
- ③ 東日本大震災復興支援関連事業（3.11支援プロジェクト）は、活動団体の支援のほか、独自のプログラムとして、藤沢市内で開催されるイベントへ積極的に、復興支援商品販売ブースを出店しました。被災された多くの皆さまと連携をとり、新たなネットワークが構築されました。
- ④ まちづくり事業として、10年間進めてきた市民交流支援施設「さんぼ庵」運営事業は、長後商店会との連携事業と衣替えをし、地元の皆さまの協力による運営が2013年9月より開始されています。また、藤沢駅北口より徒歩圏内において、同様の事業として遊行通りに「ゆくり庵」を10月にオープンしました。こちらも地区の民生委員をはじめとする多くの地域の協力者と共に運営しています。

- ⑤ その他必要な事業として本年度注目すべきは、市内で開催される藤沢市民まつりをはじめとする各種イベントへの協力があります。「藤沢市民まつり秋葉台会場・遊行寺会場」のプロデュース、「東海道シンポジウム藤沢宿大会」の事務局派遣、「みんなの消費生活展」企画協力等数多くのイベントに参画し、藤沢市が取り組んでいるシティプロモーション委員会、2020年に開催が決定した東京オリンピックの誘致委員会へNPO法人として唯一の参加者となりました。

所感

2012年度の様々な動きを一つひとつ整理して行くかのように2013年度が進んでいきました。当会の「NPO支援NPO」としての価値を向上するため、藤沢市の条例指定及び神奈川県条例指定NPO法人となったことや認定NPO法人となったこともその一つです。

多くの新しいスタッフを迎え、世代交代への一歩が踏み出せたことも大きな成果となりました。2008年に実施された公益法人改革も5年が経過し、ようやく落ち着いた数字による統計が出始めています。今後はNPO法人と他の非営利法人との違いや特性が注目され、相談業務へも反映されるものと思われます。NPO支援NPOとして目指すべき目的は変わることはありませんが、社会変革による避けて通れない手法の変化は今後増えて行くことと考えられます。

今後も、時代に即した支援事業を模索し、事業の発展を目指します。

2 事業の内容

(1) 特定非営利活動に係る事業

① 市民活動促進に関する交流会及び研修会等の開催

年間を通じ、藤沢市内の会場のみならず、各地で研修事業を開催いたしました。藤沢の事例を数多く紹介することにより、各地で藤沢の市民活動団体に興味を持っていただき、登録団体の皆様が事例発表に参加しています。又、交流会では、日ごろ顔の見える関係がとりにくいテーマの異なる団体同士の交流が図れ、新しい協力関係ができています。

ア 研修会の開催

- ・はじめの一步講座（ボランティア講座含む）

（市民活動推進センター、藤沢市生涯学習大学、湘南台市民センター、片瀬ボランティアセンター、県立湘南高等学校、県立深沢高等学校、綾瀬市、横浜市）

- ・活動支援関連講座

（神奈川県、藤沢市市民活動推進センター、藤沢市、川崎市、横浜市、綾瀬市）

- ・PC関連講座（市民活動推進センター）
- ・次世代リーダー育成研修（神奈川県民活動センター、その他民間会場）

イ 交流会の開催

- ・NPO交流サロン（6回）：市民活動推進センター、湘南台市民活動プラザ
- ・センター利用者交流会（1回）：市民活動推進センター
- ・NPO見本市（2回）：県立深沢高等学校、

② 市民活動促進に関する情報の収集と発信

年間を通じ、持ち込まれた情報と積極的に収集した情報を、多くの手法を用いて発信しています。発信を目的に市民活動推進センターの登録をお考えになる団体も出てきています。

ア 関連情報の収集と発信事業

市民活動促進に関する情報を調査収集し、広報誌・ホームページ、メールマガジン等を通じて発信した。

- ・収集件数：2,855件

助成金等支援情報・市民活動団体活動情報・全国支援センター情報他

- ・発信形態と件数

ホームページ（更新件数：3,219件、アクセス数：211,303ページビュー）

メールマガジン（定期発行分年間22回、臨時発行3回、発信先数2,246件）

情報誌

（ニューズレター年間12回、情報クリップ年間12回、ボランティアーズ3回）

タウンニュース（団体紹介：25件）

藤沢市内市民センター・公民館への情報提供（1,632件）

イ 「藤沢市市民電子会議室」管理運営事業

市民電子会議室の活性化を図るため、愛称募集・ミートアップ藤沢等、安定運用を図るための事業を実施した。

平成25年4月1日～平成26年3月31日

ウ 「Let'sふじさわ」運営支援事業

藤沢市民のITリテラシーの向上に長年寄与してきた事業の継続を支援するため、「IT講師懇談会」の事業展開をサポートしました。

平成25年4月1日～平成26年3月31日

③ 市民活動の普及啓発事業

普及啓発事業は市民活動の発展を望み、新規事業の開発が進みました。多くの市民の皆様に市民活動を知っていただく機会として、以下の事業は効果を上げています。

ア 地域グループ支援事業（さんぽ庵事業、ゆくり庵事業）（一部藤沢市委託事業）

- ・さんぽ庵（2013年4月1日～2014年3月31日）

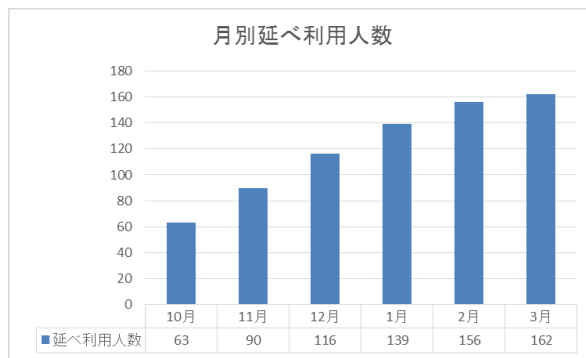
藤沢市高倉870番地にて実施

2013年7月より、長後商店会の全面的協力の元、リニューアルオープンしました。運営形態を直営から共同運営に移し、プログラムもリニューアルしました。変更後、順調に利用者の増加が見られています。

利用延人数：2,426名（759名減）登録者数：484名（28名増）営業日：199日

- ・ゆくり庵（2013年10月10日～2014年3月31日）

藤沢市藤沢577番地寿ビル201号室にて実施



2013年10月、遊行通り商店会にゆくり庵を開設。藤沢東部地区の民生委員・児童委員、社会福祉協議会の皆さんと協力体制の中、運営を進めてきました。利用者は、年度末には100名を突破し、順調な滑り出しをしています。

利用延人数：642名 登録者数：101名 営業日：69日

イ 湘南なぎさ市：湘南海岸公園中部駐車場 実施：2013年6月

ウ リユースPC寄贈プログラム事業

募集地域の拡大を図り、茅ヶ崎市・小田原市に加え、平塚市・大和市・綾瀬市・座間市のサポートセンターとの協働事業となった。

募集：2回、寄贈PC数：68台、寄贈団体数：54団体、寄贈式・講習会：2回

エ 藤沢市民まつり 2013年9月28日（土）29日（日）

従来の藤沢駅前に参加に加え、秋葉台会場のプロデュースと遊行寺会場のサポート

を実施した。

オ チラシ大賞 2013

応募総数：56 作品 表彰団体：カラー部門 4 作品 単色部門 4 作品

カ インターン受入 16 名 事務作業、PC 作業、研修会交流会等補助作業

よこはま若者サポートステーション、ウイングル、昭和音楽大学、多摩大、NPO サポートセンター、かながわ女性会議

キ 活動発表の場のコーディネート

実施期間：2013 年 4 月～2014 年 3 月 8 回（第 2 土曜・日曜 10：00～16：00）

実施場所：イオン藤沢店（藤沢市大庭 5061-2）ふれあいコーナー

ク 藤沢市民まつりにおける活動相談会の実施

・NPO 活動相談室出張版・IT サポート相談室、藤沢市市民電子会議室 登録補助

ケ SAVE JAPAN プロジェクト（希少生物保護活動団体支援プロジェクト）

・株式会社損害保険ジャパン、認定特定非営利活動法人日本 NPO センターと協働し、カララノギクを守る会を支援

④ 市民活動に関する調査・研究

様々な主体が協力関係にあることが、市民活動の支援につながると考え、今後の事業への足掛かりとして2種の調査を実施しました。

ア NPO と企業の協働状況分析

調査目的：2013 年度より「協働コーディネーター」が推進センターに配置されることもあり、NPO と企業との協働状況と協働の活性化に向けた調査を実施する。

調査方法：第 31 回 NPO 交流サロン特別編「企業と NPO の協働フォーラムふじさわ」（2014 年 3 月 1 日実施）参加者を対象に協働フォーラムでの議論内容をふまえたアンケートを実施

実施期間：2014 年 3 月 1 日（土）13:30～16:00

調査対象：57 名のうち、スタッフや登壇者を除く 39 名（NPO：30 件、企業：4 件、その他：5 件）

有効回答数：25 件（内訳：NPO が 19 件、企業 2 件、その他 4 件）

アンケート回答（一部抜粋）
協働希望者による活動展開とその方向性

	これまでの活動	今後の協働の展開	求める支援
NPO (9 団体)	<ul style="list-style-type: none"> ●企業と NPO の交流会への参加(2 件) ●事例調査 ●団体内での検討 	<ul style="list-style-type: none"> ●継続的な寄付又は品物の提供 ●地域活性化・福祉窓口事業 ●企業のビジネスコンテンツの中に地域活性のコンテンツを入れてもらうような協働関係 ●現地のニーズの情報提供など 	<ul style="list-style-type: none"> ●中間支援していただける機会 ●行政等によるコーディネート ●金銭支援(助成金)
企業 (1 団体)		<ul style="list-style-type: none"> ●三方良し、四方良しとする街づくり ●暮らしや働き方づくり 	

イ 企業とNPOのパートナーシップ推進事業への参画

実施期間：2013年4月～2014年3月

実施内容：パートナーシップ大賞へ応募した事業のヒアリング調査と審査サポート

企業とNPOの交流イベント（神奈川県主催）企画運営協力

実施場所：NPO法人パートナーシップサポートセンター事務所他

かながわ県民活動サポートセンター

ウ 委員参加

藤沢市市民活動推進委員会・社会福祉法人 藤沢市社会福祉協議会（評議員）

湘南東部地区福祉有償運送市町共同運営協議会、

藤沢市シティプロモーション準備委員会、藤沢市ワークライフバランス会議

⑤ 市民活動支援センターの運営

指定管理の節目に当たり、藤沢市市民活動推進センターの運営責任者を5年前に新規雇用した職員へバトンタッチしました。また、10月に新規オープンした湘南台プラザは、室長をはじめ、新規スタッフを雇用し、それぞれ新規体制による管理運営体制の下、順調に進んでいます。今後も利用者のユーザビリティを第一に考え、二館の情報共有をスムーズに行えるよう管理体制を強めて行きます。

ア 藤沢市市民活動推進センターの管理運営

・藤沢市市民活動推進センター 2013年4月～2014年3月(308日)

施設利用者 年間延利用者数：37,057人（対前年比96.78%）

1日利用平均人数：120.3人

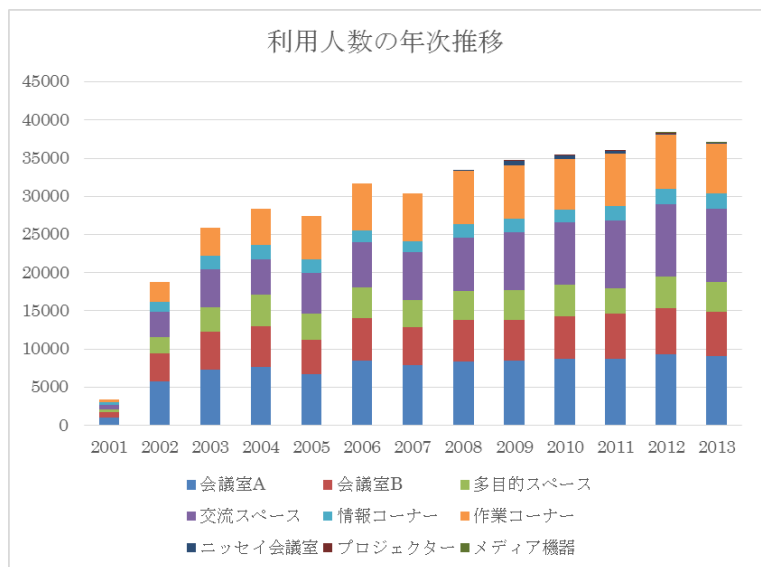
年間利用件数：10,592件

(対前年比100.76%)

1日利用平均件数：34.39件

施設管理業務・活動団体登録業務・会議室貸出・フロアー管理・作業機材管理・ロッカー貸出・レターケース管理・活動団体データベースの作成・活動相談業務・サポ-

ートクラブの運営・掲示版・配架ラックの整理・行政との調整及び報告



イ 湘南台市民活動プラザ 2013年10月～2014年3月(95日)

施設利用者

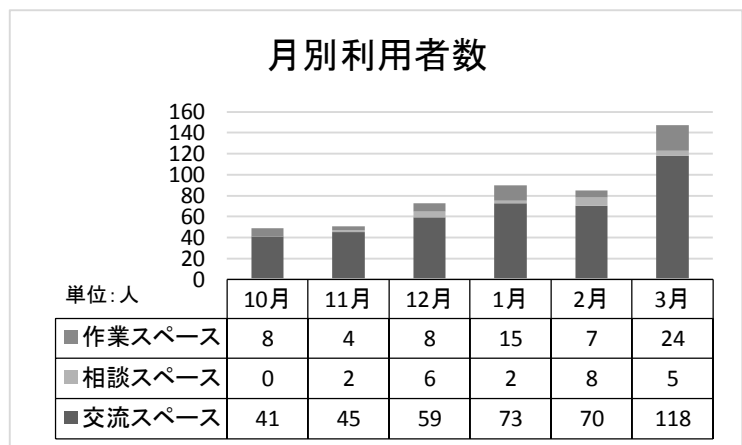
年間延利用者数：495人

(1日利用平均人数:5.21人)

年間利用件数：220件

(1日利用平均件数:2.32件)

施設管理業務・活動団体登録業務・フロアー管理・作業機材管理



⑥ その他

東日本大震災復興支援関連事業 (3.11支援プロジェクト)

2013年度の取り組みとして、市民活動推進センター内での募金活動、市内各種イベント内での被災地製作グッズ等の頒布を通じ、支援金をお預かりする事業は継続しています。再生PCの寄贈プロジェクトも継続し、現地への操作支援も実施しました。ITサポートメンバーによる再生事業により、29台の再生PCの寄贈ができました。

又、被災地から藤沢市内に避難されている皆さんに向け、神奈川県・藤沢市・NPO法人藤沢市災害救援ボランティアネットワークとの共催事業である「絆交流会」に協力しました。概ね月2回ペースで開催しました。本年度は開催会場に新事業所のゆくり庵も利用しました。次年度も継続的に開催を予定しています。